

令和7年度中央区自殺対策協議会 会議録（要旨）

日時：令和7年11月6日（木）午後6時00分～

会場：中央区保健所 2階大会議室

<中央区自殺対策協議会 委員出席者>

●区職員以外

岩重 佳治（委員長）、勝又 陽太郎（副委員長）、大谷 典生、大内 衆衛、宮崎 舜賢、戸所 綾子、安達 明央、餅田 貴行、前田 宥全、山本 順一、小池 渉（代理）、黒須 誠、大河内 健、高木 康自（代理）、石黒 雅浩

●区職員

山崎 健順（総務部長）、濱田 徹（区民部長）、大久保 稔（福祉保健部長）、俣野 修一（子ども施策推進室長）、田部井 久（高齢者施策推進室長）、河合 江美（中央区保健所長）、北澤 千恵子（教育委員会事務局次長）

●議題

- 1 開 会
- 2 保健所長挨拶
- 3 資料の確認
- 4 議 事
 - (1) 中央区の自殺の実態
 - (2) 令和7年度中央区の自殺対策への取組状況
 - (3) 自殺対策計画進捗確認シート
- 6 講 評
- 7 閉 会

1. 開会

地域保健担当課長	開会
----------	----

2. 保健所長挨拶

保健所長	開催に当たっての挨拶
------	------------

3. 資料等の確認

地域保健担当課長	配布資料を読み上げ資料の確認
----------	----------------

4. 議事

(1) 中央区の自殺の実態

委員長	議題について、事務局に説明を求める。
地域保健担当課長	議題（1）について、資料1を用いて説明
委員長	質問・意見等を求める。
委員長	自殺の原因・動機はどういう方法で確認しているか。
地域保健担当課長	警察の調査や御遺族の証言などを基にしている。原因・動機は1件につき最大4個まで計上するため、合計数は自殺者数と必ずしも合致しない。
委員長	令和6年は30歳代の若い方の自殺者が最多と説明があった。現場でも若い方の自殺が多いと感じているか。
地域保健担当課長	中央区は若い世代の転入が多く、それに伴い、年配の方よりも若い方の相談者が多いように感じている。
委員長	令和6年は全国平均に比べ「経済・生活問題」「金融問題」が中央区では少し増えている感じがするが、区としてはどう受け止めているか。
地域保健担当課長	経済的困難の相談が増えている印象はあまりないが、今は物価高などで生活に困っているとの相談があるのは確か。ただ、それが自殺の引き金になっているかは確認できていない。
委員長	働く方々や経営者の現場では何か感じていることはあるか。
委員	最近ではインフレで支出が増えて、収支が相変わらずよくない状況のため、生活が苦しい方は増えていくのではないかと危惧している。
委員長	手段別で「飛降り」が多いのは中央区の前からの特徴であるが、高い建物が多いことが影響しているのか。
委員	高層建築物が多い中央区の特徴がここに一番出ている。橋からの飛降りもあり、自殺までは至ってないが、精神疾患のある方が橋から飛び降りようとした事例があった。
委員長	なかなか難しいとは思いますが、何か飛降り自殺を思いとどまってもらえるような対策ができるとよい。引き続き検討してほしい。

(2) 令和6年度中央区の自殺対策への取組状況

委員長	議題について、事務局に説明を求める。
地域保健担当課長	議題(2)について、資料2を用いて説明
委員長	質問・意見等を求める。
委員長	メッセージカードは区施設以外に設置するのは難しいか。
地域保健担当課長	御協力いただけたところがあれば設置できる。
委員長	中央区には飲食店も多いので、切羽詰まった人が目に入るように飲食店のトイレなどに置けるとよいのではないかと。 一方で、メッセージカードなどを目にすることが逆に自殺の引き金になってしまうのではないかと懸念もあるが、その点、どう考えているか。
地域保健担当課長	どちらもあり得ると認識している。ただ、この取組は相談先が分からないのを防ぐことが目的のため、基本的には自殺対策として有効であると考えている。
委員長	今の社会では、特に若い方向けにはSNS相談もある程度効果があると思うが、その取組についてはどう考えているか。
委員	男女平等センター「ブーケ21」では、昨年度からSNS相談を始めている。男女平等の観点だけでなく、どんなことでも年齢・性別問わずに相談できる。 このSNS相談には10代の方から自殺に関しての相談も寄せられている。死にたいと言っている友達がいる、心中に誘われている、というような相談がチャットであり、何度かやり取りをし、さらに相談したければ、国や都のSNS相談を利用するよう紹介し、比較的深刻にならずに相談は終了した。 このSNS相談はそこで解決するというよりは、間口を広げて相談を受け、もし深刻であれば、国や都、専門的な窓口に案内するものである。
委員長	委員それぞれの現場における対応での悩みをお聞きしたい。
委員	医療現場で自殺未遂者と接していると、資料1の年齢別分布とは若干異なり、最近、若い人が増えているという印象がある。また原因が精神疾患ならば投薬等の治療である程度解決する。ただ、社会問題が背景にあると我々では解決できず、正直悩んでいる。 自殺未遂者の実態を把握し、自殺未遂者に対する取組が検討できると良い。
委員長	警察の現場における対応で何か悩みはあるか。
委員	警察は最初に自殺未遂の現場に臨場するが、その後につなぐのが難しい。またどういう声掛けをすれば一番いいのかと日々考えている。相談先

	<p>に関しては、対象者の類型別に相談窓口に関する指針があれば、警察だけではなく、自殺を考えている方やその家族にも相談先が分かりやすくなる。</p>
委員長	<p>最近、中央区ではワンストップ相談窓口として「ふくしの総合相談窓口」ができたということだが、その情報発信を積極的に行ってもらえると現場もやりやすい。</p> <p>一方で、窓口の信頼性、ここにつなげば大丈夫という安心感はほしい。</p>
地域保健担当課長	<p>昨年度開設した「ふくしの総合相談窓口」には何件か、希死念慮のある方からの相談があった。いずれも定期的に相談したいが可能かという問合せや、知人についての相談で、多くは傾聴の上、相談を継続している。</p> <p>一旦「ふくしの総合相談窓口」で受けてもらい、案件に応じて関係機関や医療機関につないでおり、ある程度相談できる環境整備ができていていると考えている。</p> <p>また、「ふくしの総合相談窓口」は今年度から月島特別出張所内にも開設し、より相談しやすい環境になりつつある。</p>
委員	<p>相談者が継続して相談する気になってくれることがとても重要であり、その要因がわかれば、より適切な窓口を開設できると思う。相談窓口が確実に様々な相談に対応できる多分野の人たちで構成されていると分かるだけでも相談者は非常に心強い。</p>
委員長	<p>自殺問題の継続的支援についてはどのように考えるか。</p>
地域保健担当課長	<p>自殺の動機・要因として多い健康問題、精神疾患に関しては保健所・保健センターで精神保健相談等を受けて、相談者に自殺の兆しがあればフォローして治療につなげていくなど、継続的支援を行っている。行政だけでは対応できない場合は、関係各所に協力・アドバイスを頂きながら、継続的な支援に努めている。また、案件によっては、その都度、ケースの振り返りを行って、スキル向上につなげている。</p>
委員長	<p>つなぎ方も専門の担当部署・機関を紹介し、そこに行ってくださいではなく、関係部署に窓口職員が同行するなど、伴走型支援でつなげていくことも必要だと思うが、つなぎときの工夫はあるか。</p>
地域保健担当課長	<p>支援者が途中で変わると信頼関係を構築するのが難しいこともあるので、関係部署へ同行して話を聴いたり、様子を見ながらつないでいくように心がけている。</p>
委員長	<p>その他の質問・意見等を求める。</p>
委員	<p>他区での成功体験だが、独居者の自殺未遂現場に臨場して最終的にどこに引き継ごうかとなったときに、地区ごとの連絡先などが大きく分かりやすく書かれたカードがあり、その方に渡して帰ってもらったことがある。</p>

	<p>後日、その方がカードの連絡先に電話すると、保健センターの職員がその方を訪問してくれたようで、少し元気そうな様子だった。</p> <p>中央区のメッセージカードも連絡先をもう少し大きく書いてあれば、私たちも案内がしやすくなる。</p>
--	---

(3) 自殺対策計画進捗確認シート

委員長	議題について、事務局に説明を求める。
地域保健担当課長	議題（3）について、資料3を用いて説明
委員長	質問・意見等を求める。
委員	資料2の自殺対策の取組で自死遺族への支援に触れられていないことが気になった。毎月開催している自死遺族の分かち合いや、追悼法要には多くの遺族が参加される。自殺対策としては、遺族にも目を向けなくてはいけないと思う。
地域保健担当課長	区としては、現在遺族に対する支援は行っていないが、個別に相談があれば対応する。また、おくやみコーナーを設置しており、手続的な部分を含めて遺族の不安解消に努めている。
委員長	自殺は1人の問題ではなく、遺族など周りの問題でもあるということをメッセージとして伝えていくことが大事であり、それが見えると区民への伝わり方は違ってくると思う。
地域保健担当課長	どのような形で発信できるか、考えていく。
委員長	その他の質問・意見等を求める。
委員	<p>近年、全国的に若年者の自殺が問題になっているが、そもそも日本は若年者の自殺が大変多く、30歳代までの死因の1位は自殺で、若年者の自殺が増え続けている。</p> <p>近年になり中高生の自殺者数は女性が男性を上回ったという大きな流れがあるので、そのあたりにポイントを絞った施策もあると良い。</p>
委員長	中高生で女性が上回ってきているのは何か背景があるのか。
委員	<p>その原因はまだはっきりしていない。</p> <p>若年者の自殺で大事な点は、自殺理由の1位が健康問題ではなく、学校問題と家庭問題であること。そこに切り込まなければならず、医療機関につなぐだけでは解決にならない。</p>
委員	<p>パンフレットやメッセージカードは、本当につらい人がこれを手にするのかと少し疑問に思っている。例えば「死にたい」「つらい」というワードをSNSに入れると相談先の情報などが画面に表示されれば、相談がしやすくなるのではないか。</p> <p>また最近では生活困窮者や生活保護受給者がどれくらい増えているのか気になっており、自立支援などの制度を積極的に使うことができれば、つ</p>

	らくなる前に治療などで健康を維持することができるのではないかと 思う。
--	--

6. 講評

委員長	区でできることは限られると思うが、本日の意見を参考にし、少しでも 具体化できることを少しずつ進めるためにも参考にしてほしい。
-----	---

7. 閉会

委員長	今後のスケジュールについて、事務局に説明を求める。
地域保健担当課長	次回の協議会は来年11月頃を予定している。
委員長	以上で、令和7年度中央区自殺対策協議会は閉会とする。

以上